

消費の価値を高めよう

私の住む奈良公園にも多く
の観光客の姿が戻り、猛威を
振るつたコロナの終息が感じ
られるこの頃である。そうし
た時に読んだ、ベストセラ
ー「人新世の『資本論』」
(斎藤幸平著)は、過剰な資
本主義は富の偏在を生み出す
こと、脱経済成長が緑の経済
成長(脱CO₂)であることな
どを説き、私も認識を新にす
るとこう大であった。特に過
剰資本主義社会においては、
利益至上主義で使用価値より
商品価値が優先されている結

具体的には、コロナ予防ワクチン開発が間に合わず、ファイザーなど欧米薬品メーカーに依存、また、予防用マスクの不足など、コロナ禍でのわが国の右往左往は、使用価値より商品価値が優先された結果であると述べており、「使用価値」という言葉を初めて知った。

果、ものづくりの最先端を行く
くわが国が、コロナ禍対策で、
欧米の後塵を拝したと、斎藤
氏は指摘している。

経営支援NPOクラブ
監事

中谷 兼武



コロナ禍から学ぶ使用価値

品が結構多い。これらの商品は自社の技術により商品価値の増大を競っていると思われる。使用価値に重きを置くことは、顧客の目線に立つてものづくりを行うことに他ならない。

率、サービスなどを重視し、メーカーはそれに応えて製品づくりを行っていた。建機の使用価値が、ユーザーの事業損益を左右する最大の要因であり、メーカーはそうしたニーズをしつかり把握していたということである。使用価値という言葉は知らなかつたが、ユーザーのニーズに応え機能重視の建機づくりに励んだ日々が懐かしい。

少し余談になるが、先日ドライブ中のラジオで、予算委員会の質疑を聞いていると、野党議員が「コロナワクチン開発遅れは、今までの薬事行政に問題があり、改善が必要であると考えるが政府の考え方を聞きたい」と質問しており、改めて「コロナと使用価値」が、行政でも認識されていることを知った。